

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271400980		
法人名	社会福祉法人 南有会		
事業所名	グループホーム望		
所在地	長崎県南島原市南有馬町丁306-1		
自己評価作成日	平成23年1月26日	評価結果市町村受理日	平成23年3月17日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目7217島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成23年2月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日の外出を通じて季節感を感じることが出来る普通の生活

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して11年目、現在地に移転して3年目となる落ち着いた温かさが自然に伝わる事業所である。利用者が6名ということもあり、きめ細やかな支援がなされている。外出は事業所の重要な目標として一貫して支援に努め、身体能力の低下が進んでいるが、「今までのような普通の生活を送って欲しい」という願いをもって職員は外出支援を行なっている。重度化、高齢化に伴い支援における身体、健康管理のウェイトが大きくなってきており、利用者からの発信も少なくニーズが掴みづらくなった現在だが、今まで家庭で培ってきた能力を活かして家事への参加を勧め、役割を持って暮らして頂き、満足して暮らして頂けるケアの提供を真摯に追求している。地域交流も、歳月と努力からなる認知度と信頼関係を基に出来ており、地域還元として事業所の空きスペースの活用も考慮中である。
--

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員が理念を理解し、統一したケアが出来るよう努力している	開設時に掲げた理念に込めた、ホームとしての思いをあくまで大切にしながら、今年度は職員間で改めて理念について話し合いながら、具体的な文言をサブ理念として掲げた。理念に沿った支援の在り方を考える良い機会となった。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や外出を通して、会話をしたりボランティアなどにより地域交流を図っている	「地域の寄り合い所」的な事業所を目指している。近隣の園児との世代間交流を計画し、今期はインフルエンザなど感染症に配慮して延期したが実施予定である。地域行事参加の折や、日常の声かけなど移転三年目で地域住民に馴染んできている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々からの認知症ケアの相談等を随時受け付けている		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回会議を行い、参加者の意見を聞きアドバイスを受け、ケアの質の向上に努めている	各回の会議においては議題に沿って参加者から多様で貴重な意見を頂戴している。今後はテーマに沿ったゲストとしての参加メンバーを要請し、会議内容の充実と活用を図りたいとしている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者との連携を深めるよう交流を図っている	市町村担当者とはいかに協力関係を構築していくかを常に念頭に置いており、市町村主催の行事(一斉清掃や祭りなど)には積極的に参加するようにしている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしないケアを職員全体で行っている	法人として倫理要項の中で挙げて身体拘束は行わないとしている。言葉による行動制限も含めて理解、認識して職員も対応に心がけている。利用者の情報把握が出来ていれば、行動制限は回避できるとしている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	講習会等により虐待に対する理解を深め、虐待・身体拘束は行わない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会で職員の理解を深め、利用者の支援を行う		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者・家族等に時間を取って十分に説明する様にしている		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員らに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者・家族から何でも気軽に言ってもらえる様雰囲気作りに努めている	多忙である家族へ配慮しながら、誕生会に家族を招待するなど行事を利用し、事業所への意見聴取と家族間の交流が図れる場面設定を検討中である。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングにて、職員の意見や要望を出し合い、ケアの質の向上に努め運営に反映している	毎月の会議は、全員参加が出来るように勤務表を調整し、職員の生活環境も考慮して無理のない時間設定の上で開催している。法人本部での全体会議では管理者がホームとしての意見、要望を伝えている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自が向上心を持って働ける様、環境作りに努めている		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修には多くのスタッフが参加出来る様にしている 資料等は閲覧出来る様にしている		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームの見学及び情報交換を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入所前に出来るだけ家族・利用者との話し合いの場を設け、本人や家族の不安を受け止め、安心して利用してもらう為、信頼関係を築ける様努めている</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>家族の要望を聞き、事業所ではどんな対応が出来るか事前に話し合いをしている</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入所前、本人と家族に会い馴染んでもらえる様にしている</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>本人の思いを大切にしながら、関係づくりに努めている</p>		
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>本人の思いや、家族の思いを大切にしながら、ケアに努めている</p>		
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>地域の人達との交流を深め、継続的な交流が出来る様、働きかけを行っている</p>	<p>利用者の馴染みの店で果物を頂いたり、行きつけの美容室へ通うなど意向に沿った支援を行なっている。家族と外食を楽しむ外出をされる利用者もおられ、トイレ誘導など状況説明をし自宅へ安心して帰って頂く援助支援も行なっている。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者間に職員が調整役として入り支援している</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所へ移られた際は、利用者と共に行き来し、今まで築いてきた関係を大切に継続的な付き合いが出来る様努めている		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望を出来る限り取り入れ、実現出来る様にしている	直接的な要望、意向の表明が少なくなってくる中で、「何に困っているのか」など言いたいことが伝えにくい利用者の傍らで職員が表情、行動で察知することに努めている。観察力、洞察力など職員に求められる部分が大きいと自覚している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴をふまえて、家族の協力を得ながら把握に努めている		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員と共にいながら、役割を持っていただくようケアを心がけている		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の思いや意見を聞き、介護計画に反映させる様にしている。アセスメントを含め職員全員で意見交換やモニタリング・カンファレンスを月1回行っている。又、身体状況の変化に応じ計画を見直している	担当職員がアセスメント、プランのベース作成を受け持ち、会議にて全員で検討、最終的に計画作成担当者がチェックしている。毎月の会議で実施状況を報告し評価を行っている。役割を持ち安定して暮らせているか、「本人らしさ」を主眼にしている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	勤務開始前には状態がわかる様、記録の確認を行っている		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院・面会等必要な支援は柔軟に対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を通して、地域の方々との連携を図り、支援に反映出来る様努めている		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族等の希望した受診を支援し、通院も家族が行けないので、職員が対応し報告している	協力医が主治医となられている場合は往診となっており、希望のかかりつけ医を受診する場合は通院支援を行なっている。家族への受診結果報告は面会時か、変化があれば電話ですぐにお伝えしている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃より医療面での相談・助言等を行ってもらっている		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関に情報提供を行い、面会も週1～2回程行く様にしている		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所で対応出来る方針は、家族と話し合いの場を持ち対応している	今後重度化や終末期に向けた支援が必要とされる対象の利用者もおられ、本人、家族の要望があれば支援するとしている。医療機関の24時間体制の協力は可能だが、職員の介護に関するレベルアップも急務と感じており、家族への協力要請も必須であるとしている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを整備し、職員が対応出来る様勉強会を行っている		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施している 1回は消防署の協力を得て実施している	今年度11月の運営推進会議において、避難訓練実施を受けて振り返りの話し合いがなされ、訓練時の反省を踏まえて率直な意見がだされていた。不安な点など課題抽出が出来たことで、日常の確認と次回の訓練に繋げたいとしている。	職員の避難誘導に関する更なる周知徹底といった課題を踏まえ、自主訓練の充実など反復訓練の必要性と、近隣への災害時における協力要請の具体的内容や、地域分団との合同訓練など地域連携に取り組まれることに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の思いを大切に、尊重しながら、さりげないケアを心がけ、自己決定しやすい様につとめている	人格の尊重と共に距離感は近くありたいとし、また気持ちを伝えることを大切に、方言を交えた自然で気取りのない会話の中で利用者の心の状態にあった言葉かけをしている。トイレ、入浴支援は、羞恥心に配慮し同性介助がなされている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの能力に合わせて、出来ることは自分で行える様複数の選択肢を提案するなど、自己決定できる場面を多く作れる様働きかけている		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れは持っているが、時間を区切った過ごし方はしていない。出来るだけ個別性のある支援を行っている		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望を取り入れ出来ないところは職員が援助する様にしている。又、美容室等を利用し本人の意向を重視している		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、盛り付け、片付けなど利用者と職員が共に行い、両者共同メニューで同じ食卓を囲み食事をしている。又、本人の能力に合わせて無理のない範囲で支援している	家事には出来る限り多く関わって頂くようにしており、食後も進んで利用者が食器の後片付けや茶碗洗いをしておられた。この方は職員と共にならこまで出来るのではと見極めて、味噌汁つくりを目標に支援している。行事食、旬のものを楽しめる献立にも配慮している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量チェックを毎日行い嗜好調査は3ヶ月に1回行う。月1回栄養士に献立チェックをしてもらい日々の栄養状態を把握し支援につなげている		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの能力に合わせた口腔ケアの見守りや必要な介助を行っている。利用者によっては口腔内清拭や口腔マッサージを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録表を用いて個々の状態に合わせた排泄支援を行っている。自尊心や身体機能に配慮し、トイレや紙パンツ等も本人に適した物を使用し行っている	車椅子の利用者も含め全員が、日中はトイレを使用しての自然排泄を目標に自立支援に努めている。夜間のみ、足元の安全と安眠に考慮してほとんどの方がポータブルトイレを使用している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録表にてパターンを把握することに努め、又、食事の面でも献立に反映させるなど常に気を配っている		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入りたい時に入浴出来る様支援している	ほぼ1日おきに利用いただいている。現在は全介助、部分介助の支援が必要な方が多くなっている。入浴拒否をされる場合は、対応する職員を交代したり、利用者の状態、タイミングを見計らってお誘いし気持ちよく入浴して頂いている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し、生活リズムを整える様努めている		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェック表を使用し、職員全員が把握している		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の意思を尊重し、得意分野で能力を発揮出来る様支援している。又、仕事を頼み行ってもらった際は必ず感謝の言葉をかける様にしている		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ほぼ毎日外出している。又、一人ひとりのニーズに合わせた外出を行っている	車椅子の方も含め、1日に1回は必ず外出することを目標に努めて支援している。職員に同行して水汲みや買い物にドライブがてら出掛けたり、ニーズに対応し個別対応も行っている。遠出は利用者の体調をみて、車で片道1時間程度を目安にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と事前に話し合い、本人持ちの財布に小額の現金を入れ、外出時買い物出来る様にしている		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の意向に沿って家族への電話、手紙等を出来る様に支援している		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ利用者の馴染みの物を取り入れ、居心地良く過ごせる様配慮している	元割烹料亭であった既存の建物利用だけあって、共有部分のリビングとなる畳の間などはゆったりとした広さと和風の趣きが高齢者には落ち着ける空間である。トイレ、浴室は使いやすい広さを確保されている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりの個室は勿論の事、共有スペースでの個々が好む場所や庭などを自由に使える様配慮している		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた家具や小物・電化製品を持ち込み、本人が安心して過ごせる様配慮している	既存の建物を部分改築の施設である為に、各居室はスペースの違いや畳、フローリングと仕様も少し異なっているが、いずれの部屋もその方の身体状況や暮らし方に配慮がなされ、炬燵なども持ち込まれた心地よく安心できる空間となっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	その時々で、状況に応じた環境整備に努めている		